

社外取締役に聞く、

安川電機の ガバナンス

安川グループのコーポレート・ガバナンスの状況について社外取締役 監査等委員3名の方々からコメントをいただきました。秋田氏、辰巳氏には、安川グループの経営について2016年度の評価と2017年度への期待、また課題だと感じることにについてご意見をいただきました。そして、2017年6月に新たに就任した坂根氏には、これから当社グループの経営に関わる上での抱負についてコメントをいただきました。



辰巳 和正

秋田 芳樹

坂根 淳一

社外取締役
監査等委員

秋田 芳樹

今が会社自体を一段階上のレベルに
押し上げるチャンス

社外取締役の状況

兼職の状況

株式会社レイヤーズ・コンサルティング 代表取締役会長
株式会社ベルパーク 社外取締役

選任理由

公認会計士やコンサルティング会社代表取締役としての豊富な専門知識、ご経験、知見などは当社にとって大変有益であり、客観的な視点から当社経営に対する監督を行っていただけるものと判断したため。

2016年度における事業経営への評価

就任2年目を迎えた小笠原社長の下、中期経営計画「Dash 25」の実現に向けて順調なスタートをきり、経営の舵取りは非常にスムーズに行っていると感じています。また、目まぐるしく変化する経営環境にも柔軟に対応していく、新たなリーダーシップが見られます。新規事業の立ち上げ本格化、M&Aなどによる積極的な拡大戦略にも挑戦の気概が感じられ、今後の飛躍に大きな期待を感じています。メディアへの露出も絶妙で、IR活動も功を奏し、株価が好調に推移しているのは、素晴らしいと感じています。

経営課題だと感じていること

安川電機は自己評価に過小な部分があるように感じます。既存分野での競争に勝つだけでなく、安川電機発のイノベーション製品などで新たな需要を自ら生み出し、さらなる社会貢献を成していく時期にきていると思います。また、財務体質は健全な状況なので、保守的な思考に囚われず、成長に向けてもっとリスクテイクをしていくべきと考えます。株価に対する意識をより高く持ち、また、部署間の連携強化、製品在庫管理の徹底などを通じ、より積極的な攻めの戦略を立案し、企業価値を向上させていきましょう。

2017年度における事業経営への期待

いい波が来ている今、より高い波に乗る必要があります。つまり、コア事業領域の受注が好調な時こそ、会社自体を一段階上のレベルに押し上げるチャンスだと思います。新長期経営計画「2025年ビジョン」を実現し、安川電機が競合他社と比べて突き抜けた存在になる為に、そのスタートダッシュをより加速させなければなりません。これまでの“マイルドで地味な安川電機”から“少し尖った安川電機”に変貌を遂げる、ダントツの成長に期待しています。

社外取締役
監査等委員

辰巳 和正

取締役会はモニタリングモデルへの
移行が順調に進んでいます

社外取締役の状況

兼職の状況 辰巳和正法律事務所 所長弁護士
株式会社井筒屋 社外監査役

選任理由 社外役員以外の方法で企業経営に関与した経験はありませんが、
弁護士としての豊富な専門知識、ご経験、知見などは当社にとって大変有益であり、客観的な視点から当社経営に対する監督を行っていただけるものと判断したため。

2016年度における事業経営への評価

創立100周年を終え、2016年度は新しい本社社屋で次の100年間の土台固めをじっくりと考える1年となりました。安川電機は監査等委員会を2015年6月に設置し、他社に先駆けて企業統治の仕組みを整備しました。これにより、取締役会は業務執行の監督機能を強化させ、モニタリングモデルへの移行が順調に進みました。この結果、国内で監査等委員会に移行した他の会社と比較しても、安川電機はガバナンス強化の確実な成果が見られた数少ない会社の一つであったと実感しています。

経営課題だと感じていること

安川電機が進める「開発力」「生産力」「販売力」強化のうち、長期的な経営を左右するものは「開発力」だと私は考えています。つまり、開発スタッフのモチベーションを今後もいかに高め、「開発力」を強めていけるかが、最重要課題であると思います。2016年度から小笠原新社長の体制となり、新製品開発にいっそう注力していますが、将来へ向けた「開発力」強化を支える仕組みづくりや人づくりをぜひ推進していきましょう。

2017年度における事業経営への期待

昨今の電機業界においては、海外メーカーの台頭により国内の大手メーカー各社は、グローバルマーケットでの事業展開に苦戦を強いられている状況です。このような環境の大きな変化の中、これから数年間をいかに生き抜いていくかが重要となります。安川電機は、得意とする世界一のモータ制御技術・ロボット技術によって次の時代を切り開くことを期待されています。北九州の本社を中心に、これまで以上に『世界を動かす』との気概で経営にあたり、まずは中期経営計画「Dash 25」の実現に期待しています。

社外取締役
監査等委員

坂根 淳一

常に公平な視点で
経営の判断ができるよう
努めていきます

社外取締役の状況

兼職の状況 黒崎播磨株式会社 取締役常務執行役員
セラミックス事業部門管掌 研究開発部門管掌
技術管理部長委嘱 リスクマネジメント部部長委嘱

選任理由 事業会社での役員などの経験を通じて培われた経営の専門家としての豊富な専門知識、ご経験、知見などは当社にとって大変有益であり、客観的な視点から当社経営に対する監督を行っていただけるものと判断したため。

就任にあたっての抱負

企業を取り巻く環境は、常に変化しています。特に近年では、米国における新政権発足や、英国のEU離脱問題などにより経済見通しの不確実性が増しており、これまで以上に大きな変化が予想されます。このような変化を的確に捉え、迅速な対応していくためには、ガバナンスの質を高める努力が必要です。特に、異なる文化や価値観が交錯する時に新しい視点が生まれ、変化への対応力は強化されていくと思います。この観点に立ち、微力ながらも私の経験や価値観が安川電機の文化と相まって、ガバナンスの強化が実現できるように業務にあたる所存です。そして、取締役監査等委員の重責を思うと身の引き締まる思いですが、常に公平な視点で経営の判

断できるよう努めてまいります。私は新日鐵住金(株)で約25年、黒崎播磨(株)で10年年過ごしてきましたが、この間に「製造」「設備」「研究開発」「管理」と幅広い経験を積んでまいりました。また、黒崎播磨(株)では海外企業との合併会社2社の取締役も勤めていますが、一貫して技術畑を歩んできたので、安川電機でも技術的側面を中心に監査等委員の役割を果たしていく所存です。監査というと、内向きな“守り”の要素が強くなるイメージですが、安川電機の成長をさらに加速させる“攻め”の委員として業務にあたり、企業価値の向上に貢献していきたいと考えております。